

発行日： 令和2年 8月18日

発行者： 今村証券株式会社

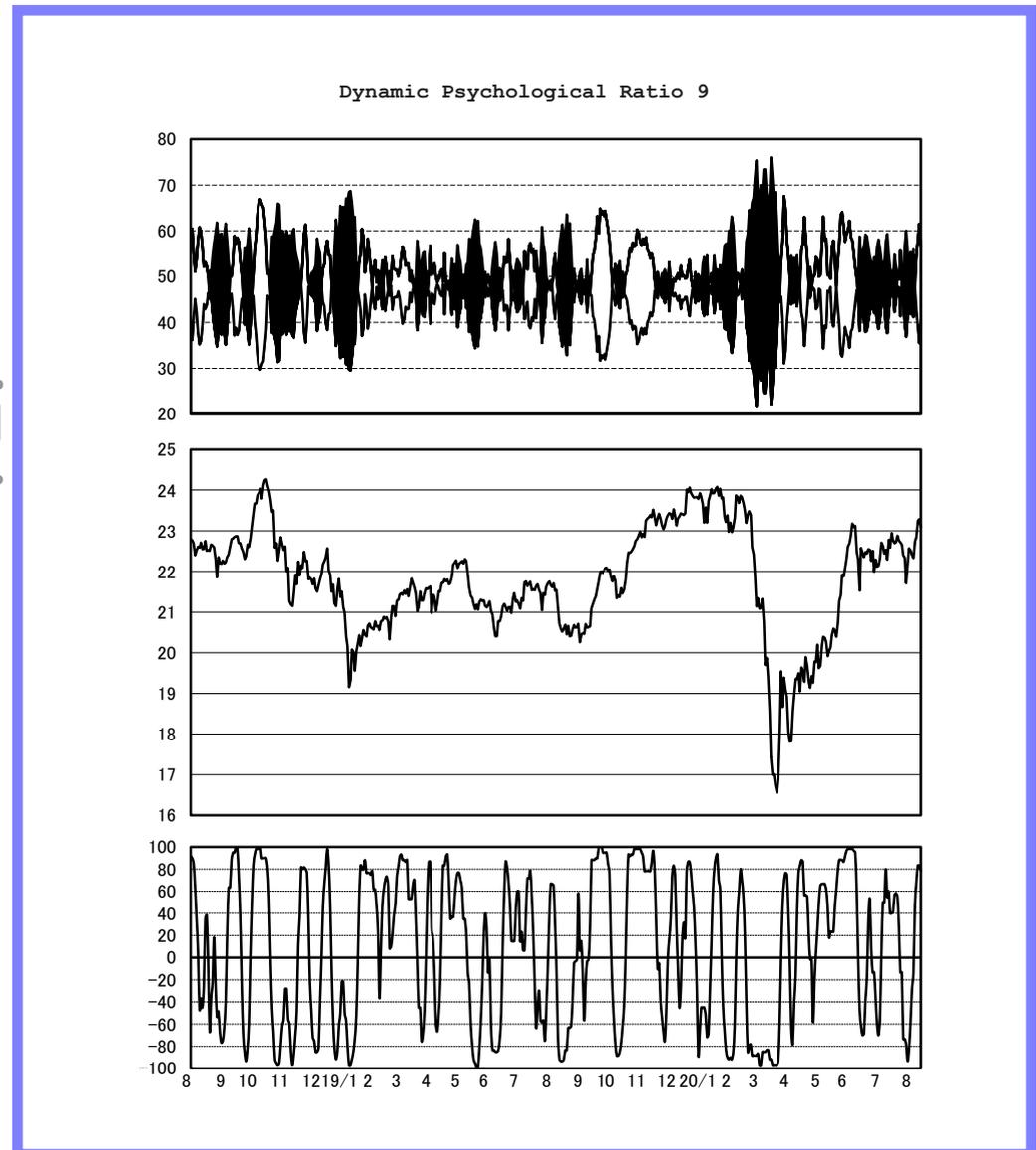
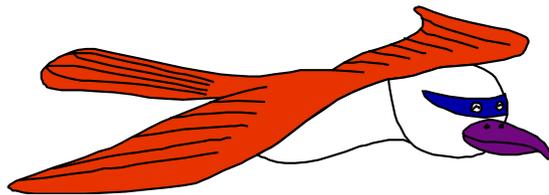
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者： 営業推進部 調査課

情報シャトル特急便

第671号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場

中図は日経平均株価

下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場

80%ラインを下につき抜け→売り場

大所高所

13日、日経平均株価は2万3千円を回復した。半年ぶりの高値を付け、コロナ急落前の水準に近づいた。前日の米国の追加経済対策を好感した米国市場の上昇が弾みを付けたのは確かだろうが、これだけ日経平均が上昇するのは予想外だった。どこまで本当かは解らないが、例年お盆の時期は相場が閑散とするが、今年は外出自粛で株取引も休まずに行う投資家が多く、今年は盛り上がっているのだとか、..

それはさておき、相場が上昇に向かっているのは、経済対策による金融緩和と新型コロナウイルスのワクチン普及による経済活動正常化の期待感が後押ししているとみるのが一般的だろう。また、香港問題から生じた米中の軋轢は、もはや貿易戦争ではなく冷戦に近いところまで来ており、世界経済への悪影響は避けられないところだ。だが、このきっかけとなった中国が破棄した香港の一国二制度は、アジアの金融ハブであった香港から、シンガポールか東京への金融拠点の移動を促すことにつながりつつあるようだ。ここのところ東京証券取引所の金融国際化の期待感をにじませるニュースが増えてきているのもポジティブな要因につながっている。

とはいえ、米国では株式のキャピタルゲイン課税に関し、バイデン候補が高所得者は現在のほぼ倍の39.6%へ増税すると言えば、トランプ氏は最高税率を15%へ引き下げると表明し、大統領戦の駆け引きが活発化し始めており、依然として相場に一波乱起こす火種が多く存在することを忘れないようにしたい。 (nil admirari)

ただ一筋

日経平均株価は約2カ月間続いた2万2000円から2万3000円のボックス相場を上放れてきた。この間には、新型コロナの2次感染拡大や米中間の攻防、また、厳しい今4-6月期の企業業績の発表といった多くの懸念材料があっただけに改めて相場の強さを確認できたのではないか。チャート上では、急落直後の急反発といった騙し足が2度（6月16日、8月3日）出現するなど神経質な相場展開が続いたことで腰を据えての投資は出来なかったのではなかろうか。

さて、当面の展開だが、2万3000円前後の上値抵抗線を突破してきたことは大きく、スピード調整があっても1月につけた2万4000円を視野に入れた上昇トレンドは強まるとみている。ただ、物色方向においては、先行して大きく買われていたグロース（成長）銘柄には利益確定によるポジション調整売りが見られる一方、4-6月期の業績をボトムに反転期待が持てるバリュー（割安）銘柄に見直し買いが入るなど銘柄選定には気迷いが生じている状況といえよう。

個人的には、強烈に買われている米国ナスダック市場に連動していける銘柄を注目したい。となれば、バリュー銘柄を引き付けて売り、グロース銘柄の押し目狙いの戦法となるのだが…。

（三感王）

当たり屋見参

今週の日経平均株価は5営業日ぶりの反落でスタートした。前週に6月の戻り高値を上回る大幅上昇となったことで、利益確定の売りが出たと思われるが、強気相場は継続中とみている。懸念材料には、米国政府が中国通信機器最大手ファーウェイへの制裁強化を発表したことによる、米中対立への懸念が挙げられる。しかし、このニュースに市場は慣れてしまっており、過度な警戒感は特に必要ないと考えている。まだまだ市場参加者が少ない中で、新型コロナウイルス感染拡大で急落した後の急回復に乗り切れなかった投資家が慌てて参加し、上昇に拍車をかけていく流れを期待している。

注目銘柄としては、大型株では4～6月期純利益6倍強となって昨日には1カ月半ぶりに年初来高値を更新した任天堂(7974)、小型株では、アフターコロナ銘柄であるアセンテック(3565)を挙げたい。

(腹)

中堅の視座

ウィズコロナ、アフターコロナと言われるようになり、株価も二極化が進んでいるように思う。

ウィズコロナ、アフターコロナ関連銘柄と言われるものはたくさんあるが、その中でもNEC(6701)に注目したい。7月31日に発表した4～6月期赤字転落を受け、株価は6,000円程から5,300円を下回るまで下落した。しかし、通期での黒字計画に変更はなく、今後の業績回復が可能であるとみているようで、株価の回復も期待される。

私たちの生活でも、在宅勤務や通信教育の増加で今まで以上にPCやネット環境の必要性が高まっている。そのため長期的に見ても、5G関連の需要はもちろんのこと、それに付随したセキュリティー技術やIoT関連の拡大には期待ができるのではないだろうか。

(FH)

きらきら星

金の国際価格が7月後半～8月初めにかけて連日で史上最高値を付けた。金には利子もなければ配当もなく、金投資の利益の源泉は価格変動のみであるが、コロナショックを背景に各国が実質金利を過去最低水準に押し下げている有事には、金が資金の逃避先となっている。これは、金が太古の昔から世界共通に非常に価値あるものとして存在し続けてきたことにあり、価値が最も守られるものという共通認識があることと、インフレヘッジのためである。

「投資の神様」と言われるウォーレン・バフェットが率いるバークシャー・ハザウェイが世界第2位の金鉱山会社の株式を取得していたことが明らかになっている。金鉱山株は、金とは違い、事業によって利益を生み出すため、収益が上がれば配当などの株主還元が行われ、企業価値が上昇すれば株価も上昇する。

日本では40年近く前、「最後の相場師」と言われた故是川銀蔵氏が住友金属鉱山(5713)の株を買い集めて大儲けし所得番付で全国1位となった。ベテラン証券マンから「別子」と呼ばれる住友財閥の礎となった別子銅山の流れをくむ住友金属鉱山(5713)に注目したい。
(丹青)

アナログの俯瞰

①インフルエンザ感染②新型コロナ感染。①と②どちらが恐いですか？と尋ねたら、10人中9人は②と答えるだろう。①は高熱でしんどいのが大半、②は無症状の人が大半である。しかし現実には②を選ぶ。質問を変えて①と②どちらかに感染するとしたらどっちがいいですか？10人中8人が①と答えるだろう。人の心理を動かしているのは得体のしれない不安と恐怖だ。①にはワクチン、治療薬があり、②は開発途上である。ワクチン、治療薬が確立された途端、質問の答えは逆になる。

今、メディアでは一般人は感染者＝犯罪者、著名人は感染者＝話題提供者のように報道されている感がある。一般人なら犯人捜し、その近所では誹謗中傷の嵐だ。とかく世の中おかしい。地震、洪水、異常高温。そして株価バブル。生活様式・様態が変わるべき世に、人の心も少し変えていかなければならない。株式相場は先んじてプラス思考。ウィルスの変異が先か、人の心の変化が先か。ある意味、今の市場が模範となり、そしてその変化が訪れるまで株式バブルは続くのかもしれない。株式市場が冷静に俯瞰している！？良くも悪くもその役割や意味は極めて大きい。

成果報酬型広告大手のバリューコマース(2491)、5G・バリュー株でNTTドコモ(9437)、キャッシュレス関連でGMOフィナンシャルゲート(4051)。

(あーただの新しい風邪やろ？医師の一言、妙にすっきり！？クレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

＜北陸電気工業＞

2021年3月期第1四半期連結業績は3割の減収・営業赤字。新型コロナウイルスの影響から自動車メーカーなどでは各地で生産停止を余儀なくされ、同社の受注も落ち込んだ。主力の自動車向けが前年同期比36%減の33億42百万円と減少し、情報・通信機器向け、AV機器向けも半減、家電機器向けも同2割超の減少となったことで大幅な減収となった。利益については、販売管理費の抑制はみられたものの、減収によって粗利益が減少した影響が大きい。営業損益は1億24百万円の赤字となり、投資有価証券評価損を2億28百万円計上したことで最終損益が2億74百万円の赤字となった。

足元の受注は持ち直している様子だ。殊に自動車向けでは回復が顕著な部品も見られる様子で、最悪期は脱した印象だ。ただ、新規の受注案件が遅れ気味であることに加え、海外子会社の決算期が12月であることから、第2四半期の業績は引き続き厳しいものが想定される。業績回復は第3四半期以降となりそうだ。

こうした中、会社では期初に「未定」とした通期業績予想の開示に踏み切った。売上高は前期比18.6%減の315億円と、2期連続の2桁減収見通した。利益については製品構成による利益率改善を想定するが、大幅な減益は避けられない。配当予想は前期と同じ年間30円見通した。

” 僧 中 線 罫 ”

月足



日足



日経平均株価は7月31日に21,710円の安値を付けた後、急反発し6月9日の高値23,185円を超えてきた事で新たな上場相場に入った可能性が高い。今月末大きな下落がなければ、9月相場も期待が持てそうだ。

6701 NEC

5月12日に開示した今期21年3月期営業利益予想が1,500億円の17.5%増益と堅調な見通しだったことから、株価は1月14日高値の5,180円を突破し、7月29日には6,050円の高値を付けた。しかし、7月31日に1Q営業利益102億円赤字を発表すると5,250円まで売られた。ただ、長期的なチャートは上昇相場を示しており、今後5G関連等の材料が出てくる事に期待し、この押し目を拾っておきたい。

出所：ブルームバーグ

(I C H I)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大1.201750%（税込）（1.201750%に相当する金額が2,612円未満の場合は2,612円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資1単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。